

高鍋町教育研究所

I	研究主題及び副題	…11-1
II	主題設定の理由	…11-1
III	研究の目標	…11-1
IV	研究仮説	…11-1
V	研究内容	…11-1
VI	研究の全体構想	…11-2
VII	研究の実際	…11-3
1	キャリア教育に関する研修	…11-3
2	キャリア教育の視点を取り入れた目標・年間指導計画等	…11-3
(1)	ふるさと学習の目標の構造一覧表	…11-3
(2)	生活科におけるふるさと学習の年間指導計画	…11-3
(3)	総合的な学習の時間におけるふるさと学習	…11-3
3	キャリア教育の視点を取り入れたふるさと学習の実践	…11-4
(1)	小学校における実践 高鍋西小学校1年生	…11-4
(2)	小学校における実践 高鍋東小学校2年生	…11-5
(3)	中学校における実践 高鍋西中学校1年生	…11-6
(4)	中学校における実践 高鍋東中学校2年生	…11-7
4	児童生徒や教職員への啓発	…11-8
(1)	お仕事図鑑の作成	…11-8
(2)	教職員に向けての研修	…11-8
(3)	ふるさと学習通信の発行	…11-8
5	家庭や地域への啓発・連携	…11-9
(1)	回覧板を活用した啓発活動	…11-9
(2)	人材バンクの作成	…11-9
VIII	研究の成果と課題	…11-10
1	研究の成果	…11-10
2	今後の課題	…11-10

【引用・参考文献】

【研究同人】

I 研究主題及び副題

ふるさとへの愛と誇りをもつ児童生徒の育成
～ふるさと学習からキャリア教育を考える実践を通して～

II 主題設定の理由

高鍋町は、蚊口浜や高鍋湿原などの豊かな自然に恵まれ、その長い歴史の中で築きあげられた形あるものや「明倫の教え」「石井十次の人間愛の精神」などが受け継がれている。

本研究所では、平成 19 年度からこのようなふるさとのよさや先哲の教えを知り、ふるさとの心を受け継ぎ育て、よりよいものにしていこうとする児童生徒を育てたいと願いながらふるさと学習の研究を進めてきた。

4 年間の研究で高鍋町の地域素材を取り扱った授業の充実や家庭・地域と連携した様々な体験的な活動を設定することができた。さらに教職員や家庭・地域へのふるさと学習の啓発・広報活動を行ったことで、各学校でのふるさと学習に対する意識は向上し、児童生徒のアンケート調査結果を通してふるさとへの興味・関心の高まりも見えてきた。

しかし、本主題の「ふるさとへの愛と誇りをもつ児童生徒の育成」という点では十分に目標を達成できていないという実態も見えてきた。また、これまでの研究では「ふるさととの関わりの中で自己の在り方や生き方を見つけさせること」を目標としたところでもあったが、一人一人に「生きること」や「働くこと」について考えさせるという点では、十分ではなかった。

そこで、本年度は、これまで積み上げたふるさと学習を基にキャリア教育の視点を加えた研究と実践を行い、小・中学校 9 年間を通した取組とするために、生活科と総合的な学習の時間の実践を中心として研究することとした。このように児童生徒が、ふるさと高鍋のよさやすばらしさを学習したり、体験したりする中で「生きること」や「働くこと」を学び、将来に向かって豊かな人生観や望ましい職業観・勤労観の基礎を養うとともに「ふるさとへの思いを深めていくようにすること」の重要性を考え、本主題及び副題を設定した。

III 研究の目標

小・中学校において、生活科・総合的な学習の時間のふるさと学習をキャリア教育の視点から見直し、地域素材を取り扱う授業に加えて体験的な活動の充実や教職員・家庭・地域への啓発を図ることで、ふるさとへの愛と誇りをもって、「生きること」や「働くこと」を考える児童生徒を育成する。

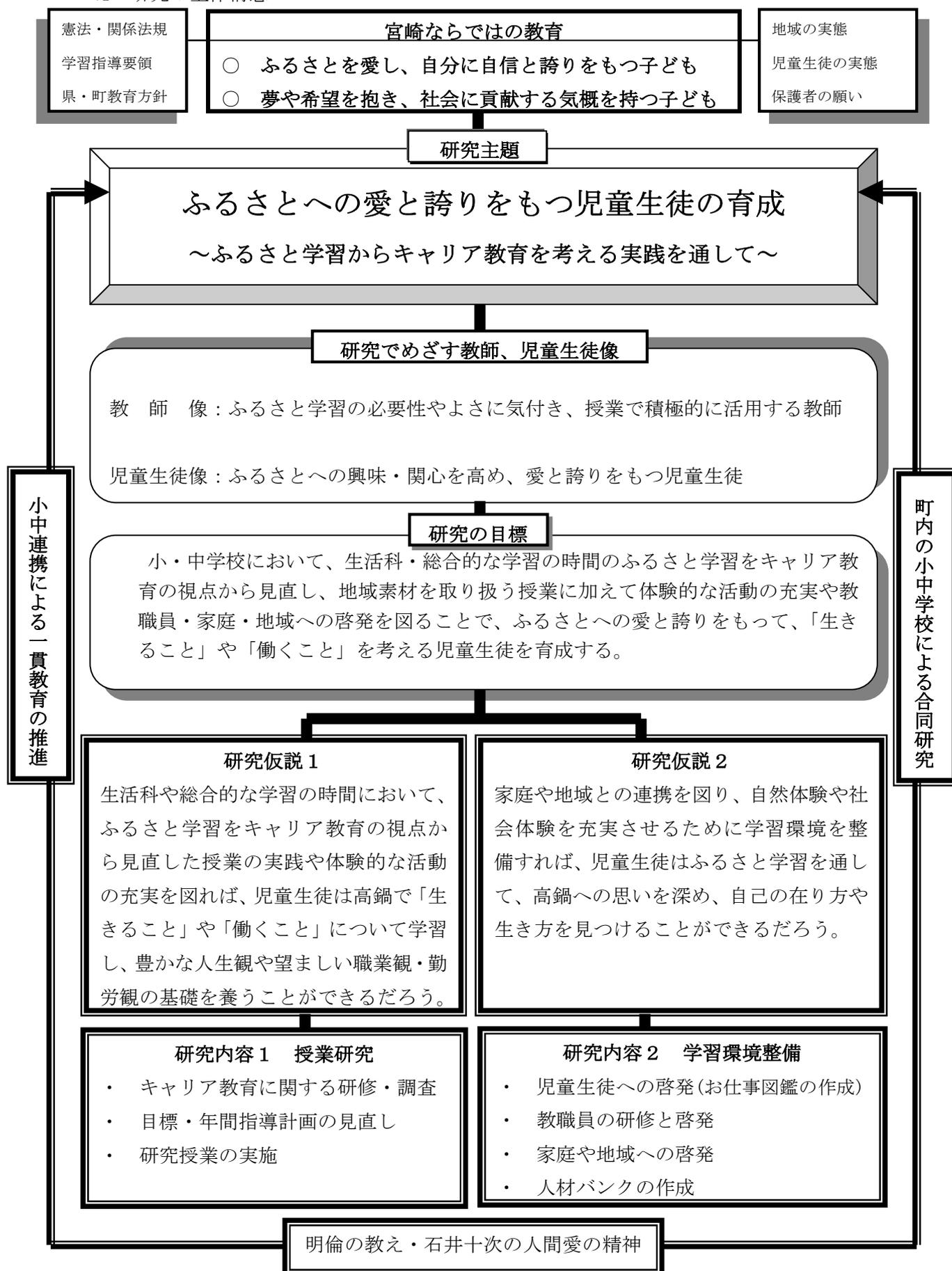
IV 研究仮説

- 1 生活科や総合的な学習の時間において、ふるさと学習をキャリア教育の視点から見直した授業の実践や体験的な活動の充実を図れば、児童生徒は高鍋で「生きること」や「働くこと」について学習し、豊かな人生観や望ましい職業観・勤労観の基礎を養うことができるだろう。
- 2 家庭や地域との連携を図り、自然体験や社会体験を充実させるために学習環境を整備すれば、児童生徒はふるさと学習を通して、高鍋への思いを深め、自己の在り方や生き方を見つけることができるだろう。

V 研究内容

- | | |
|---|---|
| 1 授業研究 | 2 学習環境整備 |
| <ul style="list-style-type: none">・ キャリア教育に関する研修・調査・ 目標・年間指導計画の見直し・ 研究授業の実施 | <ul style="list-style-type: none">・ 児童生徒への啓発(お仕事図鑑の作成)・ 教職員の研修と啓発・ 家庭や地域への啓発・ 人材バンクの作成 |

VI 研究の全体構想



VII 研究の実際

1 キャリア教育に関する研修

研究員自身のキャリア教育に関する見識を深めるために中部教育事務所から講師を招いての研修会を行った。以下のような講話及び協議で研修を深めることができた。

- ・ キャリア教育が求められている背景
- ・ キャリア教育とは
- ・ キャリア教育のめざすもの



【講師を招いての研修会】

キャリア教育で何を身につけさせていくべきかが分かり、本町のふるさと学習におけるキャリア教育の在り方についても提言がなされた。

2 キャリア教育の視点を取り入れた目標・年間指導計画等

(1) ふるさと学習の目標の構造一覧表

昨年度までの研究で小学校3年生から中学校3年生までのふるさと学習の目標の構造一覧表を作成した。これは、総合的な学習の時間に限ったものであった。そこで、今年度は新たに小学校1・2年生の生活科からふるさと学習を実施するので、1・2年生の目標を新たに追加したものを作成した。右が新たに作成した小学校1・2年生におけるふるさと学習の目標である。ふるさと学習の入門期であるので、児童が関わりやすい身近な人やものを意識して作成した。

	小学1・2年
テーマ	身近な高鍋に興味をもつ
高鍋や生き方に関する関心・意欲・態度	○ 身近な高鍋のことに興味・関心をもつ。
高鍋や生き方に対する思考・判断	○ 直接体験を通して身近な人や高鍋との関わりに気づく。
高鍋や生き方に関する情報活用の技能・表現	○ 感じたことや気づいたことを相手にわかるように表現する。
高鍋や生き方についての知識・理解	○ 身近な高鍋の自然・環境を知る。
取り上げる地域素材と主な学習内容	地域の公園、身近な人

(2) 生活科におけるふるさと学習の年間指導計画

今までの研究で総合的な学習の時間におけるふるさと学習の年間指導計画は、作成していたが、生活科においてはまだ作成していなかった。各校の実態に合わせて年間指導計画を作成した。ふるさと学習の目標を参考にして、地域の人材や教材で活用できそうなものを既存の年間指導計画から洗い出してふるさと学習の年間計画として作成した。作成したものは、各校で検討し加除修正を行った。

【第1学年】		生活科における「ふるさと学習」計画案	
1 年間指導計画へのふるさと学習の位置づけ			
1 学期(35 時間)	2 学期(41 時間)	3 学期(26 時間)	
さあみんなであそぼう(8 時間)	みんなみんな大すきだよ(10 時間)	わくわくふゆがやってきた(9 時間)	
2 各単元指導計画			
時	1 学期 さあみんなであそぼう	指導上の留意点	資料・準備
第1次(6)	1 遊びの計画を立てる。 ・ 身近な遊び場を紹介し、いっしょに遊ぶか話し合う。 ・ 遊び場に行く計画を立てる。 2 野外で遊ぶ。 ・ 遊び場で楽しく遊んだり、探検したりする。 ・ 楽しかったことや発見したことを発表する。	○ 自分の家の近くには、どんな遊び場があったか想起させる。 ○ どんな遊びをしたらみんな楽しく遊べるかを考えさせる。 ○ 遊びの計画にそって遊ぶことができるようにさせる。 ○ 友達と協力し、仲良く遊ぶことができるようにさせる。	遊び場の写真
第2次	1 報告会の準備をする。 2 報告会を行う。	○ みんなに伝えたいことを自分なりの方法で発表することができるようにさせる。	発表の準備

(3) 総合的な学習の時間におけるふるさと学習

今までのふるさと学習の年間指導計画にキャリア教育の視点を加味したものを作成した。本町の総合的な学習の時間における学習の流れが課題の設定→情報の収集→整理分析→まとめ・表現となっているので、それに合わせて指導する上で配慮すべき事項を考えて作成した。

段階	キャリア教育の視点からふるさと学習を指導する上での配慮事項	
課題の設定	小学校	自分が調べてみたいことの原因を明確に持たせる。 グループでの活動での役割分担に積極的に参加させる 計画作りの必要性に気付かせ、作業の手順を理解させる。
	中学校	事前に調査依頼をすることができる。 自分の課題を理解し、解決する手順を計画充実させる。
情報の収集	小学校	友達と協力したり、教え合ったりして調べさせる。 調べた相手への感謝の気持ちを伝えるようにさせる。 分からないことが出てきたら質問することができるようにする。 課題解決のための必要な計画を立てさせ、1人1人に発達をもたせる。 主体的・意欲的な学習ができるようグループに配慮する。
	中学校	調査後のお礼をすることができる。 調べた相手の話を聞く時、その人の気持ちや考えを受け止めることができるようにさせる。

3 キャリア教育の視点を取り入れたふるさと学習の実践

(1) 小学校における実践 高鍋西小学校 1年生

ア 単元名 みんな みんな 大すきだよ

イ 本時の目標

- 家の中で自分でできることを見つけ、練習することができる。

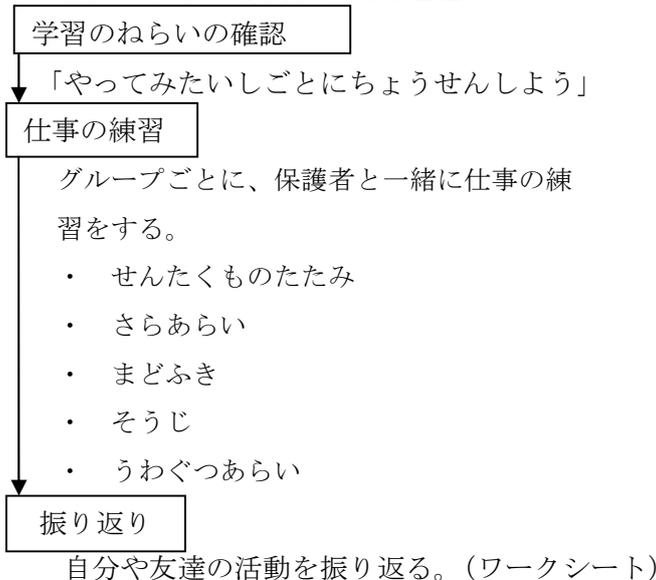


【保護者と一緒に練習】

ウ キャリア教育の視点から

- 児童が家族と共にしていることや家族にしてもらっていることを振り返り、家庭生活を支えている家族のことや家族の中の自分のこと、自分でできることなどについて考え、自分の役割を進んで果たすようになることをねらいとする。
- 家庭での自分の生活を振り返ることを通して、家庭生活においてそれぞれの果たしている仕事や役割の価値、家庭の温かさ、家族一人一人のよさなどが分かるようになる。その上で自分でできることを考え、実践していこうとする意欲を高め、家庭生活において役割を果たしながら、生活を積極的によりよくしていこうとする態度を育てることができるようになる。

エ 授業の大まかな流れと指導過程



段階	主な活動	○ 教師の支援 ★ 評価	準備物
気 付 く 5分	1 本時の学習のねらいについて知る。 やってみたいしごとにちょうせんしよう。	○ 本時は、前時までに決めた自分がやってみたい仕事に挑戦し、練習することを知らせ、活動への意欲をもたせる。	
考 え る 2.5分	2 仕事に挑戦し、練習する。 ・ せんたくものたたみ ・ さらあらい ・ まどふき ・ そうじ ・ うわぐつあらい	○ 自分が挑戦する仕事の内容や必要なものが準備できているかを確認する。 ★ 進んで活動に取り組もうとしているか。(観察) ○ 同じ仕事の人でグループをつくり、グループの中で協力して練習できるようにする。 ○ 各グループを回りながら、仕事を一生懸命練習しようとしている姿や工夫などをみつけ、賞賛し、関心を継続できるようにする。 ○ 各グループに保護者に支援に入ってもらい、仕事の要領を伝えていたり、よいところやがんばりを認めていただくようにする。 ★ 仕事に意欲的に取り組んでいるか。(観察)	練習に必要な道具
解 決 す る 1.0分	3 自分や友達の活動を振り返る。	○ 各グループで活動を振り返り、よかったところや気付いたことをワークシートに記入し、発表させる。 ★ 活動を振り返ることができたか。(観察・評価シート)	ワークシート
生 か す 5分	4 本時の学習内容について振り返る。	○ 本時の学習を振り返り、家でも挑戦することができるようにする。 ○ 保護者に本時の学習の感想や励ましの言葉を伝えていただくことで実践意欲を高める。	

オ 考察

- 自分のしたい仕事を決め、気を付けることを考えさせたり、準備したりすることにより意欲的に学習に取り組むことができた。
- 保護者の協力を得ることで、仕事の練習をスムーズに行うことができた。児童は、保護者の方に教えていただいたり、ほめていただいたりすることで、自信をつけることができ、実践意欲が高まった。
- 一人一つずつ取り組む仕事を決めて練習したが、他の活動の様子を見ることができるよう時間や場の工夫が必要であった。
- 児童の感想や保護者の感想をもっと聞く時間を確保できるとよかった。
- 練習したことを継続して実践できるように、家庭と連携していく必要がある。

(2) 小学校における実践 高鍋東小学校 2 年生

ア 単元名 もっとしりたいな 町のこと

イ 本時の目標

- 町や人々の生活の様子について関心をもち、人々とかかわる町探検の計画を立てることができる。

ウ キャリア教育の視点から

- 町探検における発見・気づきを「ひみつ」と表現し、それを本時のめあてで用いることにより、児童の期待感を高め、町探検の視点とする。
- グループへの机間指導を充実させ、表面的なことだけでなく、町や人のよさとかかわる内容も考えさせるよう助言する。
- インタビュー練習では、より実践に近い形で練習させるために、インタビューマニュアルを活用したり参観者に「お店やさん」として対応してもらったりする。



【グループごとの話し合いの様子】

エ 授業の大まかな流れと指導過程

前時の想起と本時学習のねらいの確認

- ・ 資料を提示し、1 回目の町探検を想起したり 2 回目の町探検への意欲を高めたりする。
- ・ めあてを確認し、児童の期待感を高め、2 回目の町探検への視点を与える。

グループごとに「聞きたいこと・見たいこと」の話し合い

グループごとに「聞きたいこと・見たいこと」発表

インタビューの練習

本時学習の振り返りとまとめ

- ・ 頑張ったことや気付いたことをワークシートに記入させる。
- ・ 話し合いや練習の頑張りを賞賛する話をし、2 回目の町探検への期待を高める。

オ 考察

- 児童は様々な場面でしっかり声を出し、自分の考え・思いを口にしようとしており、全体を通して大変意欲的な取組ぶりであった。
- 本時のめあてを確認した際、発見・気づきを「ひみつ」と称した時、児童の目の色が変わったのを感じた。活動内容への興味が更に高まった瞬間だった。
- 楽しく話し合いに参加し、「聞きたいこと・見たいこと」の記録が 2 年生なりによくできていた。
- 話し合いは時間を区切ったことで見通しをもって進めることができたが、後半で出さなかった内面的なことを引き出す言葉掛けが不十分だった。

段階	主な学習活動	○教師の支援 ★評価	準備物
6 気 付 く 6 分	1 町探検 1 で心に残ったことを発表する。 2 本時のめあてを確認する。しよう店が「ひみつ」を見つける町たんけん計画を立てよう!	○ 写真を提示することにより、町探検 1 を想起させる。 ★ 自分の思いを積極的に発言しようとしているか。(発表) ○ 事前アンケートも提示することにより、町探検 2 への意欲を高める。 ○ 発見・気づきを「ひみつ」と表現することにより、児童のおもしろく感高め、町探検 2 の視点とする。	町探検 1 の写真 事前アンケートのまとめ めあてカード
考 え る 3 1 分	3 学習の流れを知る。 ・「聞きたいこと・見たいこと」の話し合い ・話し合ったことの発表 ・インタビューの練習 4 グループで話し合う。	○ ワークシート「町たんけんパスポート」を活用し、話し合う視点を示しておく。 ○ 見通しをもって学習できるように、本時学習の流れを提示しておく。 ○ 「聞きたいこと・見たいこと」を 3-4 点、考えさせるようにする。 ★ 積極的に話し合いに参加し、「ひみつ」を探る内容を考えているか。(観察) ○ 表面的なことだけでなく、町や人のよさとかかわる内容も考えさせるよう助言する。 ○ 話し合いが早く進んだグループは、インタビューの練習をさせる。 ○ 聞き名人・お話し名人を意識させ、お互いを認め合うようにする。 ○ 「聞きたいこと・見たいこと」を板書し、他グループの内容・頑張りに着目させる。	ワークシート「町たんけんパスポート」
	5 グループ毎に発表する。	○ 聞き名人・お話し名人を意識させ、お互いを認め合うようにする。	
	6 インタビューの練習をする。	○ インタビューマニュアルをもとに「聞きたいこと」を話し言葉にし、練習させる。 ○ 模範となるグループを全体の場でさせてみる。 ★ しっかり声を出し、意欲的に練習できているか。(観察)	インタビューマニュアル
解 決 す る 6 分	7 自分や友達の活動を振り返る。	○ 本時を振り返り、頑張ったことや気付いたことをワークシートに記入させる。 ★ 自分を振り返ったり友達の頑張りに気付いたりできたか。(観察・ワークシート)	ワークシート
生 か す 1 2 分	8 本時学習をまとめる。 ・先生の話 ・次時の予告、確認	○ 話し合いや練習の頑張りを賞賛する話をし、 ○ 町探検 2 に関して確認し、活動への期待感を高める。	

(3) 中学校における実践 高鍋西中学校 1年生

ア 主題名 ふるさと学習～高鍋町の産業～

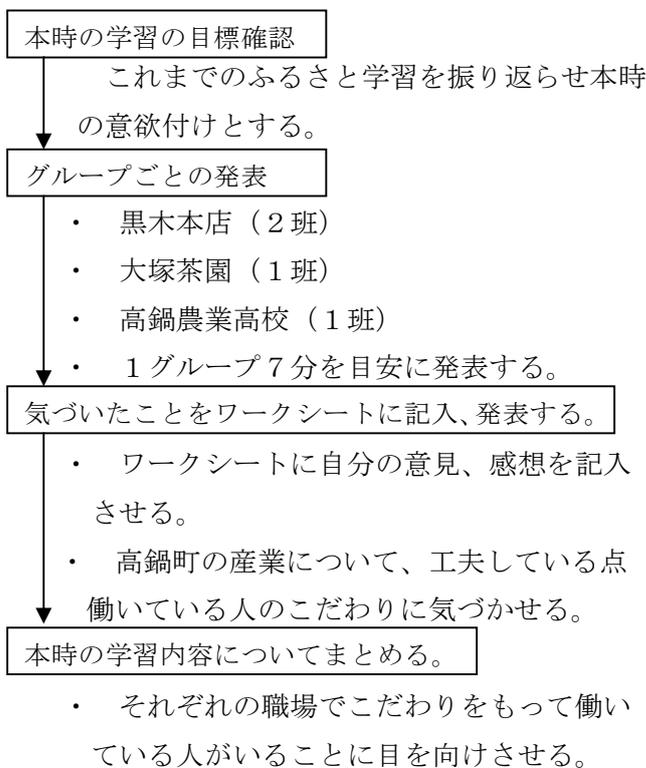
イ 本時の目標

- ふるさと高鍋町の産業について調べたことを分かりやすく発表することができる。
- 意欲的に発表活動、評価活動に参加し、これからの学習の見通しをもつことができる。

ウ キャリア教育の視点から

- 将来への展望をもつことができるように、地元の産業で働く人々の工夫やこだわり、気持ちや熱意を感じとらせたい。
- 地元の産業についてグループごとに調べ学習を行い、工夫している点やこだわりを発表することで、働く喜びや、やりがいに気づかせる。

エ 授業の大まかな流れと指導過程



6 指導過程			
時間	主な学習活動	○教師の支援 ★評価	準備物
5分	1 これまでの体験学習、調べ学習について振り返る。	○ 楽しい雰囲気の中で学習できるように留意する。 ○ 視覚的な教材を提供することで、更に興味・関心を高められるようにする。	
20分	2 班ごとに調べた内容を発表する。 ・ 黒木本店（2班） ・ 大塚茶園（1班） ・ 高鍋農業高校（1班） 1班発表終了ごとに、ワークシートに気付いた点、感想を書く。 仕事上の工夫や職人のこだわりを中心にメモをとる。	○ 発表活動が積極的に進められるように、班を回り活動を支援する。 ★ 意欲的に活動に参加しているか。 ○ 班で考えたことを発表する場の中で、調べる方法や調べの内容についての視点を広げられるようにする。 ○ 称賛する場を設定する。さらに質問を行うことで、より深く学習を進めさせる。 ○ 特に、仕事上の工夫や働いている人のこだわり、熱意に気づかせメモを取るよう促す。	様紙 発表原稿
20分	3 班ごとに発表した内容をもとに話し合い活動をする。 ・ 発表後に行ったメモをもとに、仕事上の工夫や職人のこだわりなどを出し合い、産業が発展していくためにどんなことをしているのか話し合う。	○ 話し合いがより活発に行われるように、新しい視点を与え、より深めることができるように活動を促す。 ★ これからの学習への見通しをもつことができたか。	ワークシート
5分	4 本時のまとめをする。	○ 次時の活動へつなげることができるよう、まとめを行う。	

オ 考察

- 3つの分野(産業・自然・偉人)に分けて発表させたことで、観点が明確になった。
- 事前に発表練習を行ったことで、発表がスムーズに進んだ。
- 発表する内容の精選を徹底して行う必要があった。
- 仕事の内容をまとめる作業を通して、仕事のこだわりや工夫について生徒が気付くことができた。



【発表の様子】

(4) 中学校における実践 高鍋東中学校 2 年生

ア 主題名 体験を振り返ろう

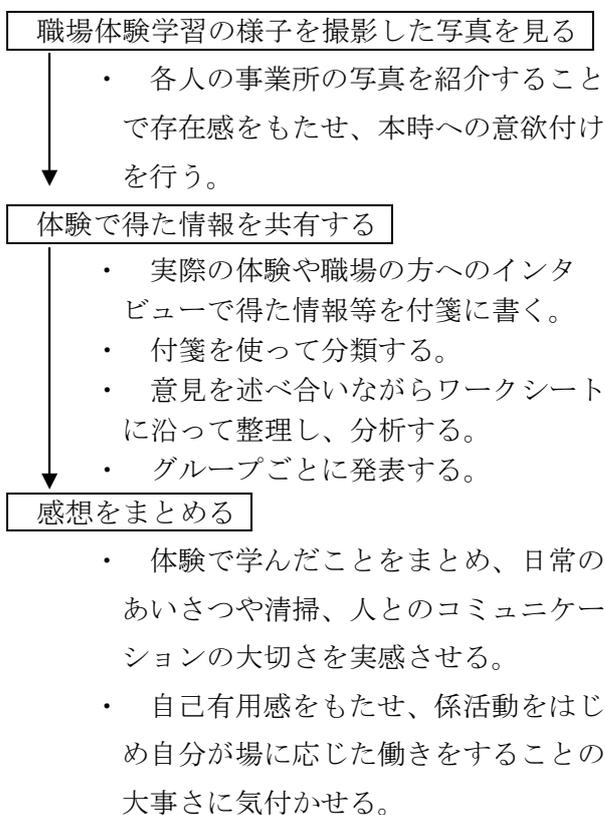
イ 本時の目標

- それぞれの体験を振り返り、体験で得た情報を共有するために、付箋を使って分類することで、整理したり分析したりする力を高めることができる。
- 業種にかかわらず共通して大事なものがあることや、特徴的なものがあることなどに気づき、仕事(働くこと)の意義を考えることができる。

ウ キャリア教育の視点から

- 職場体験の事前指導においてねらいを明確にもたせておき、それについて感想が述べられるようにする。
- 仕事をする上で大切にしていることや魅力など、業種を問わず共通するものやそれぞれに業種の特徴があることに気付かせ、仕事(働くこと)の意義を見つめるように仕向けたい。

エ 授業の大まかな流れと指導過程



過程	学習内容及び学習活動	○ 指導上の留意点 ☆ 評価	資料・準備
課題の設定	1 それぞれの職場体験学習の様子を撮影した写真を見る。 2 数名の生徒の感想を聞く。(発問) 3日間の体験を通して、どんな感想をもちましたか。 3 学習のめあてを確認する。 体験を貴重な経験へ	○ 各人の事業所の写真を紹介することで存在感をもたせる。 ○ 体験の事前指導においてねらいを明確にもたせておき、それについて感想が述べられるようにする。	プロジェクタ パソコン プリント 「職場体験のまとめ」
課題の追究	4 体験で得た情報を共有する。 (1) 「職場体験のまとめ」から必要な情報を抜き出し、付箋に書く。 ・ 体験した主な仕事 ・ 大変だ(難しい)と感じたこと ・ うれしく感じたこと ・ 仕事の良さ(魅力) ・ 仕事をする上で大切にしていること (2) 付箋を使って分類する。 (3) 意見を述べ合いながらワークシートに沿って整理し、分析する。 5 グループごとに発表する。	4 (1)において ○ 単語、短い語で書き出させる。 ○ 業種ごとに付箋の色を変えて書く。 4 (2)、(3)において ○ 業種を問わず共通するものとその業種の特徴があらわれたものがあることに気付かせる。 ☆ 体験で得た情報を分類し、整理・分析することができたか。 ○ なぜ業種が違うのに共通しているのか、あるいは、業種によって特徴的なものを持っている意味を考えさせることで、仕事(働くこと)の意義を見つめるように仕向けたい。 ☆ 仕事(働くこと)の意義を見つめることができたか。 ○ 他のグループのまとめを聞き、自分の考えを深めるようにする。 ○ メモ(ワークシート)をみんながわかりやすく伝えさせる。	プリント 「職場体験のまとめ」 ワークシート
課題の達成・評価	6 今日の学習を振り返り、感想をまとめる。 ・ 仕事をする上で大切なこと ・ 人が働く意義 ・ 社会貢献(役に立っている) ・ 自己有用感	○ 体験で学んだことを明確にまとめることができる。 ○ 日常の学校生活のあいさつや清掃、人とのコミュニケーションの大切さを実感させる。 ○ 自己有用感をもたせ、係活動をはじめ自分が場に応じた働きをすることの大事さに気付かせる。	ワークシート

オ 考察

- 職場体験学習の様子を撮影した写真を見せることで、存在感をもたせ、本時への意欲付けとすることができた。
- 実際の体験や職場の方へのインタビューで得た情報を付箋に書き、グルーピングする中で共有でき、意見を述べ合いながら整理・分析して深めることができた。



【付箋を使って話し合う生徒】

4 児童生徒や教職員への啓発

(1) お仕事図鑑の作成

中学校2年生に、職場体験学習後の仕事に関する感想や意見を書いてもらい、それらをまとめて「お仕事図鑑」を作成した。職場体験学習の意義を広く伝え、小学校の低学年段階から身の回りの仕事に関心を持ってもらい、将来の仕事への夢や希望を持てるようにすることを目的としてまとめた。各学校へ配付し、各学級で利用してもらう予定である。

(2) 教職員に向けての研修

夏季休業中に高鍋町小・中学校教育職員研修会が行われ、昨年度の本教育研究所の研究及び本年度の取組についての説明を行った。その際に、本年度は「ふるさと学習にキャリア教育の視点」を加えることを強調した。高鍋町の担当職員より「学校支援地域本部事業」に関する説明がなされ、各学校で地域コーディネーターと連携を図ってほしいとの要望もあった。また、各学校でフィールドワーク研修を計画して、高鍋の名所・旧跡を巡り、高鍋の自然や文化、歴史について理解を深めることができ、生活科や総合的な学習の時間におけるふるさと学習の指導力の向上に生かせる研修となった。

(3) ふるさと学習通信の発行

昨年度、本教育研究所が取り組んでいる研究内容を町内の教職員に紹介するために「ふるさと学習通信」を発行した。ふるさと学習における各校の研究授業の様子やふるさと学習の取組を「ふるさと学習通信」で紹介したことで、各校のふるさと学習に対する意識が高まったという成果が見られた。そこで今年度も、ふるさと学習のより一層の推進と充実を図るために「ふるさと学習通信」を発行した。

○ 「ふるさと学習通信」では、以下の内容を取り扱った。

- ・ 高鍋町小・中学校教育職員研修会の様子
- ・ フィールドワーク研修の様子
- ・ 各学校の研究授業の様子
- ・ ワークショップ型の事後研究会の様子

発行：高鍋町教育研究所
NO. 2 平成23年10月
高鍋町教育研究所 研究テーマ

ふるさとへの愛と誇りをもつ児童生徒の育成
～ふるさと学習からキャリア教育を考える実践を通して～

第1回研究授業が行われました。
今年度、第1回目の研究授業が10月19日(水)に高鍋西中学校で行われました。甲斐浩記先生に1年生の総合的な学習の時間の授業を提供していただきました。本授業では高鍋町の産業に目を向け、黒木本店、大塚茶園、高鍋農業高校について調べてきた内容を班ごとに発表し、発表した内容をもとに考えを共有するための話し合い活動を行いました。高鍋町の産業で働く人々のこだわりや熱意を感じることができる授業でした。

発表の様子

グループでの話し合い

ワークショップ型の事後研究会

高鍋西中学校の研究授業後に事後研究会を行いました。今回の事後研究会では、ワークショップ型の研修を行い、授業での「よかった点」「改善したほうがよい点」について意見を出し合い、充実した研究会にすることができました。

小学校と中学校に分かれてのワークショップ

ワークショップ後の発表

【事後研究会の様子】

子ども達が、自分なりにしっかりと説明することができていた。
声の大きさも良かった。

仕事の工夫や働いている人の熱意、こだわり、願いにもっとふみこんで考える手立てがあるとよかった。

5 家庭や地域への啓発・連携

(1) 回覧板を活用した啓発活動

本教育研究所の取組を家庭や地域に広く知らせるために、町内各地区の回覧板を活用した啓発活動を行った。各家庭を回っていく「ふるさと学習通信」には、研究内容や授業実践の様子を分かりやすく掲載した。

〈1 2月号 (No.1)〉

- 平成19年度から始めた研究概要と今年度にキャリア教育の視点が新しく加わった経緯

- 作成中の人材バンクの紹介
- 教職員によるフィールドワーク研修の内容
- 研究授業の様子
(高鍋西中学校、高鍋西小学校)

〈1月号 (No.2)〉

- 研究授業の様子
(高鍋東小学校、高鍋東中学校)
- お仕事図鑑の紹介

(2) 人材バンクの作成

本年度の研究内容は、昨年度までのふるさと学習をキャリア教育の視点から見直し、内容の検討を行ってふるさと学習の充実を図るものであった。

さらに今後の指導を新しい視点から行うためには、この学習への協力を呼びかけて幅広い職種の人材の必要性を感じた。

そこで、現在高鍋町が行っている学校支援地域本部事業の地域コーディネーターと協力しながらふるさと学習における支援者として町内で多くの方に呼びかけることにした。

また、本年度は小学校の生活科や小中学校の総合的な学習の時間に協力してもらった職種や人材をデータとして登録することにした。

このデータを基礎資料として、次年度から町内の小中学校4校で共有する体制をとった。

回覧

ふるさと学習通信



平成23年12月 No.1
高鍋町教育研究所

高鍋町教育研究所では平成19年度から「ふるさとへの愛と誇りをもつ児童生徒の育成」を目指して「ふるさと学習」の在り方や高鍋の良さを生かした地域教材の研究・開発に取り組んできました。

本年度はこれまでの「ふるさと学習」の研究を、今学校に求められている「キャリア教育」の視点で見直し、実践研究を深めているところです。

今回、この取組の一つとして「ふるさと学習通信」を発行し、本町が取り組んでいる「ふるさと学習」の様子をお知らせすることにいたしました。

町内の皆様にはこれまでいろいろな形で各学校へ御協力・御支援をいただき誠にありがとうございます。

「ふるさと学習」からキャリア教育を考える実践は、学校・家庭・地域の連携によってはじめて進めることができるものだと思います。今後ともお力添えをどうぞよろしくお願い申し上げます。

キャリア教育とは

今日、国際化や情報化など子ども・若者を取り巻く社会が大きく変化の中で、コミュニケーション能力の低下、職業意識・職業観や進路意識・目的意識の希薄化など、子ども・若者の社会的・職業的自立に向けて様々な課題がみられます。

そこで、子どもたち一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、子どもたちが社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程(キャリア発達)を促していくキャリア教育の推進が強く求められています。(平成23年1月 中央教育審議会答申)

人材バンクを作っています!



町内の学校では、「ふるさと学習」の際にボランティアでご協力いただける方を探しています。小学校の生活科や小・中学校の総合的な学習の時間、行事などの折に、体験活動の先生として担当職員と連携しながら指導にあたっていただきたいと考えています。これまでにご参加いただいた方は、今年度の人材バンクに登録し、各校で共有できるようにしています。「こんなことを教えたい」、「これなら教えられる」とお考えの方、登録していただけませんか。

(シェフ体験講座、おくら高鍋店より)

ふるさと学習と支援者 ー人材バンクー					
学校名 (高鍋東中学校) 学年 (中学1年 ~ 中学3年)					
地域コーディネーター名 (竹内 敬雄)					
番号	学 習 内 容	月のめやす	担当者名	支援者名	備考
1	米の自給率について	4月	鶴野・竹内	農林振興局	中3
2	口蹄疫について	5月	鶴野・竹内		中3
3	田植え	4月	濱川	高鍋農業高校	中3
4	高鍋温泉について	4月	長崎・竹内	社会教育課	中1
5	進路指導	8月	鶴野	岩下克樹	全学年
6	職場体験	11月	落合	石井記念にしん保育園	中2
7	職場体験	11月	落合	石井記念ゆめ保育園	中2
8	職場体験	11月	落合	ももの木保育園	中2
9	職場体験	11月	落合	高鍋町いわかば保育園	中2
10	職場体験	11月	落合	高鍋カトリック聖母幼稚園	中2
11	職場体験	11月	落合	高鍋幼稚園	中2
12	職場体験	11月	富田	介護老人保健施設なでしこ園	中2
13	職場体験	11月	富田	じゅじの家デイサービスセンター	中2
14	職場体験	11月	富田	高鍋町老人デイサービスセンター	中2
15	職場体験	11月	富田	特定非営利活動法人しろはと工房	中2
16	職場体験	11月	富田	東児湯消防組合	中2
17	職場体験	11月	富田	児湯農業協同組合高鍋給油所	中2
18	職場体験	11月	小野	ホテル四季亭	中2
19	職場体験	11月	小野	高鍋町ゴルフスポーツセンター	中2

Ⅷ 研究の成果と課題

1 研究の成果

- キャリア教育に関する研修を通して、キャリア教育についての基本的な考え方が理解され、児童生徒にどのような能力を育てることが大事かを学ぶことができた。
- ふるさと学習の目標や年間指導計画を見直したり新たに作ったりしたことで、ふるさと学習の充実が図られ、さらに研究授業の中にも反映させることができた。
- キャリア教育の視点を取り入れて研究授業を行うことで、各学年におけるキャリア教育の指導の在り方について触れることができた。さらに研究授業の事後にワークショップ型の研究会を行い、授業の良さや改善点を明確にすることができた。
- 児童生徒への啓発を図るためにお仕事図鑑を作成したことで、生徒自身が職場体験学習を振り返る一助にもなり、他の児童生徒にとっても「働くこと」を考える資料にもなった。
- 高鍋町小・中学校教育職員研修会やフィールドワーク研修を通して、教職員自身がふるさと学習について研修したり、教職員向けの「ふるさと学習通信」で、研究授業の様子や各学校の取組を紹介したりしたことで、ふるさと学習の在り方について理解が進められた。
- 回覧板を活用した家庭・地域向け「ふるさと学習通信」は、研究所の活動や研究内容について家庭や地域に知らせるために効果的であった。

2 今後の課題

- キャリア教育に関する研修は、高鍋町小・中学校教育職員研修会で行われたが、少ないので今後も継続的に全教職員に対する研修を行っていく必要がある。
- 生活科や総合的な学習の時間を通して、「どのようにキャリア教育を進めるか。」について、さらに明確にしていく必要がある。キャリア教育の視点については、他教科等の指導にも生かして「育てたい能力」を培っていききたい。
- お仕事図鑑は、高鍋町内の職場体験学習の記録として、生徒の仕事についての感想や意見を知り、学ぶ資料として各学校・各学級で児童生徒のために利用してほしい。
- 家庭・地域向け「ふるさと学習通信」を通じた広報活動は、町全体に及ぶため発行回数が限られるので、紙面の構成や内容について吟味することが必要である。
- 人材バンクについては、本年度作成したものを来年度以降、積極的に活用できるようにしていく必要がある。

【引用・参考文献】

- ・ 第二次宮崎県教育振興基本計画 宮崎県教育委員会
- ・ 小学校キャリア教育の手引き 文部科学省
- ・ 中学校キャリア教育の手引き 文部科学省
- ・ くしま学 串間市教育研究所
- ・ さいと学 西都市教育研究センター
- ・ 平成 19 年度、平成 20 年度、平成 21 年度、平成 22 年度教育研究報告書 高鍋町教育研究所

【研究同人】

所長	萱嶋 稔				
研究指導員	幸丸 義信				
研究員	小松 誠也	黒木 雄治(高鍋東小)	高橋 京子	磯貝 恵美(高鍋西小)	
	鷗野 和幸	長崎 敏彦(高鍋東中)	甲斐 浩記	山路 理恵(高鍋西中)	